１－１　日本とその周辺の地震活動（2006年5月～10月）
Seismic Activity in and around Japan（May - October 2006）

気象庁　地震予知情報課
Earthquake Prediction Information Division, JMA

今期間，日本とその周辺でM5.0以上の地震は63回，M6.0以上の地震は10回発生した．このうち最大は，10月1日に千島列島で発生したM6.8の地震と10月24日に鳥島近海で発生したM6.8の地震であった．

2006年5月～10月のM5.0以上の震央分布を第1図に示す．

主な地震活動は以下の通りである．

(1) 北海道地方とその周辺の地震活動（本巻「北海道地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

特に目立った活動はなかった．

(2) 東北地方とその周辺の地震活動（本巻「東北地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

2006年10月11日08時58分に福島県沖の深さ50kmでM6.0（最大震度3）の地震が発生した．発震機構は西北西—東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で，太平洋プレートの沈み込みに伴い発生した地震である．その後，今回の震源の北側でM5.0の地震が２回発生するなど，やや離れた場所で地震活動の活発化が見られたが10月末には収まっている．この領域では，今回と同様な経過をたどる地震活動が過去にも見られた．

(3) 関東・中部地方とその周辺の地震活動（本巻「関東・中部地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

2006年8月7日03時16分に父島近海でM6.2（最大震度２）の地震が発生した．この地震の震央は伊豆小笠原海溝軸よりも東側に位置している．発震機構は北西－南東方向に張力軸を持つ逆断層型であった．

2006年10月24日06時17分に鳥島近海でM6.8（最大震度２）の浅い地震が発生した．発震機構は東北東－西南西方向に張力軸を持つ正断層型であった．また，この地震による微弱な津波を伊豆諸島などで観測した．

(4) 近畿・中国・四国地方とその周辺の地震活動（本巻「近畿・中国・四国地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

特に目立った活動はなかった．

(5) 九州地方とその周辺の地震活動（本巻「九州地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

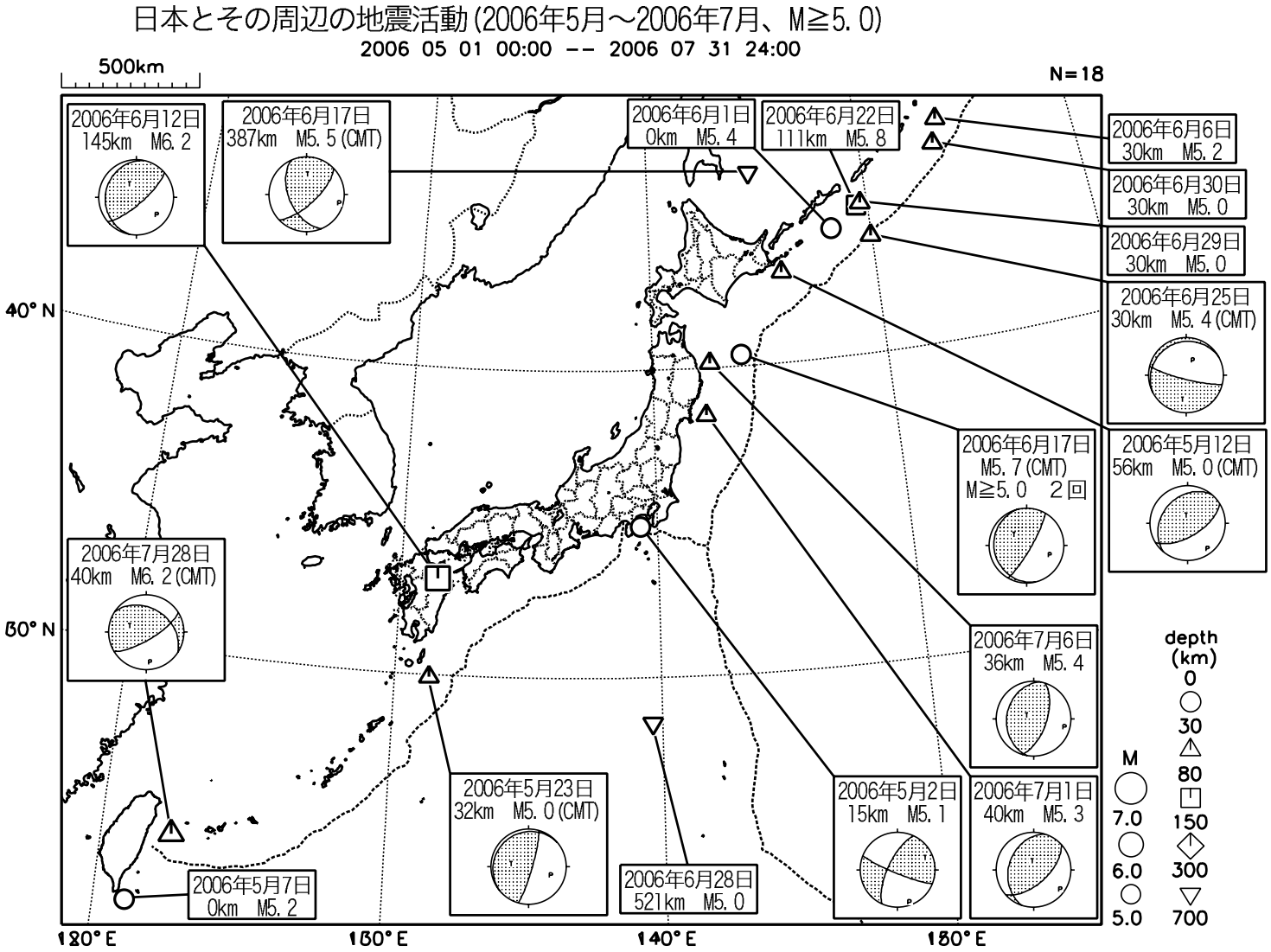
６月12日05時01分に大分県西部の深さ146kmでM6.2（最大震度５弱）の地震が発生した．発震機構はフィリピン海プレートが沈み込む方向に張力軸を持つ型で，フィリピン海プレート内部のやや深い場所で発生した地震である．余震活動は低調であった．今回の地震の震央付近では深さ90～130kmの範囲でM３～４程度の地震活動が時々見られるが，今回の地震はこの活動部分よりもやや深い場所で発生しており，この部分ではM6.0を超えるような地震はこれまで観測されていなかった．

(6) 沖縄地方とその周辺の地震活動（本巻「沖縄地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

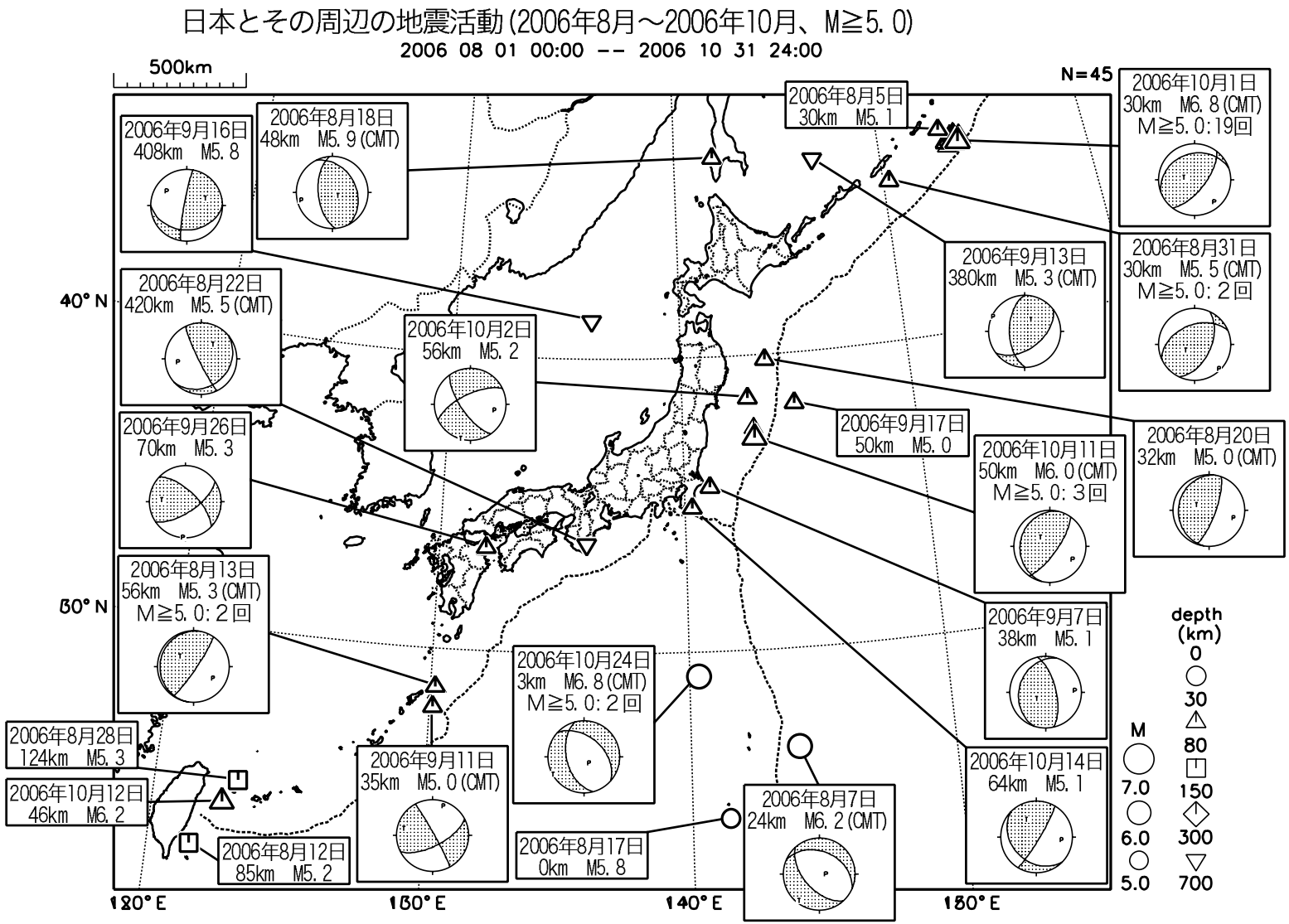
2006年10月12日23時46分に与那国島近海でM6.2（最大震度２）の地震が発生した．この地震の震央付近ではM6.0程度の地震が時々発生している．最近では2006年７月2日にM 6.2の地震が発生している

(7) その他の地震活動

2006年9月下旬から10月にかけて，千島列島の東方の海域で地震活動がやや活発となり，最大M6.8（2006年10月１日）の地震をはじめM６以上の地震が４回発生した．その後，期間外になるが2006年11月15日20時14分にM７.9の地震が発生した．発震機構（ハーバード大学によるCMT解）は，北西—南東方向に圧力軸を持つ逆断層型であった．この地震により北海道の太平洋沿岸，オホーツク海沿岸，本州（東北～伊豆半島）の太平洋沿岸，伊豆諸島，小笠原諸島，四国，九州の太平洋沿岸で高さ0.8～0.1mの津波を観測した（本巻「2006年11月15日千島列島の地震について」の頁参照）．



第 1 図(a) 日本とその周辺の地震活動（2006 年 5 月～ 7 月，M ≧ 5.0，深さ≦ 700 km）
Fig.1(a) Seismic Activity in and around Japan (May - July 2006, M ≧ 5.0, depth ≦ 700 km).



第 1 図(b) つづき（2006 年 8 月～ 10 月，M ≧ 5.0，深さ≦ 700 km）
Fig.1(b) continued (August - October 2006, M ≧ 5.0, depth ≦ 700 km).